

# 造形 JOURNAL

特集

## 地域と連携した造形教育

— その大切さを改めて考える —



特集

# 地域と連携した造形教育

—その大切さを改めて考える—

今、学校教育には「社会に開かれた教育課程」の実現が目指されています。

従来の図画工作・美術の教科が学校の教室から飛び出して

地域社会と結びつくことで、どのような造形教育が可能となるのでしょうか。

今回は地域の力を活用したさまざまな実践を紹介しながら、

改めて地域社会と図画工作・美術がいかに連携し、

どのような展望が拓かれ新たな価値が生まれるのかを探ってみたいと思います。





## CONTENTS

- 04 特集 地域と連携した造形教育  
— その大切さを改めて考える — 【蝦名敦子】
- 08 地域とともにつくる美術教育 【高安弘大】
- 10 人と人がつながっていく造形之力 【蒔苗靖子】
- 12 つながりの先にあるもの — 連携によるシナジー効果 — 【窪木富士美】
- 14 美の姿  
・ 墨壺 【藤澤英昭】
- 15 ちかごろ気になる…  
・ 言葉にできない「好き」を 【石垣拓磨】  
・ タブレット端末で制作をふり返る 【竹中直】
- 16 子どもと美術館  
・ 福岡市美術館【主任学芸主事：鬼本佳代子】
- 20 題材アレンジレシピ  
・ [小学校]  
 入り口の向こうには… 【猪又梨花】  
・ [中学校]  
 ズームイン「ダ・ヴィンチ」【塚越美奈子】
- 24 先生のため  
・ 「形と色彩で自己紹介」【伊藤彩乃】



# 地域と 連携した 造形教育

その大切さを  
改めて考える

地域社会と連携した造形教育を考える  
上で、私が附属小学校の校長として実際に体験した事例を取り上げてみたいと思います。それは、一つの図画工作科の実践から、地域社会で執り行われる祭りへの参加へ、そしてさらに作品の展覧会へと発展していったケースです。祭りの好きな附属小学校の教師が、子どもたちに地元の伝統文化であるねぶたづくりを経験してもらいたい、という思いで始めた授業がきっかけでした。

※弘前市「弘前ねぶたまつり」…扇型の灯籠が多く登場する。  
青森市「青森ねぶた祭」…歌舞伎の一幕などを表す人形の灯籠が多く登場する。



それから次に扇型の灯笼に絵を表現するといふ題材へと進みました。この時の木材の骨組みは教師が用意しました。当初はねぶた祭りに参加することは念頭になかったため、図工の題材として灯笼の前と後面を飾る絵のモチーフも武者絵に限せず、「よつこぞ、わたしたちのまちへ」というテーマで自由に描いていきました。児童が社会科見学で実際に見たことのある歴史的建造物の「長勝寺」や「弘前城」、「弘前カトリック教会」、「旧弘前市立図書館」、「自然景勝地の「岩木山」や「桜」林檎」などの絵柄が、従来のねぶた絵の型にこだわらず、自由に構成して描かれました。墨の一回性を難なく駆使し、のびのびと大胆に太い描線で描かれ、中に入



## 金魚ねぶたづくりから 灯笼製作へ

スタートは  
4年生を対  
象とした、小  
さな金魚ねぶ  
たを製作する題



材でした。児童がねぶた絵の手法である蠟ろうを使った絵が描けるのかどうか、実際に授業に取り入れたものでしたが、実際に紙貼りをし、溶かした蠟を使った彩色を施して、見事に自分たちで金魚ねぶたを製作することができました。

れる豆電球の光の効果を考えながら、鮮やかに彩色されました。そうして完成した灯笼絵はとても新鮮でした。そこで祭りへの参加が検討され、弘前大学のねぶた運行に附属小学校の子どもたちが灯笼を持つて参加することができました。

## 一から灯笼の製作へ

翌年、その灯笼を見た新4年生が、もう少し形を変えて自分たちもつくってみたい、と声を上げました。灯笼の形状にもっと厚みをもたせて、中の骨組みそれぞれから自分たちでつくりたいと言い出したのです。中学年になると、のこぎりや金づちなど指導すべき用具や材料も増えてきます。児童たちは、一から用具の使い方の指導を受けつつ、一つ一つ部材を確かめながら準備し、手順を踏んで灯笼をつくっていききました。特に男子児童が嬉々として用具を使いこなしている姿が印象的でした。

自分たちのつくった灯笼を担いで実際のねぶた祭りに参加できることが決定すると、子どもたちにはやる気がみなぎってきました。

こうして、この活動は一つの区切りがついたと思っていました。ところが、その学年が6年生になった時、またつくりたい、という声が上がったのです。今度はもっともっと大きなねぶたをつくりたいと。



- 1 溶かした蠟を使って彩色を施している様子。
- 2 弘前大学のねぶた運行
- 3 自慢の灯笼を得意げに担いでいます。



## 灯笼の大型化へ

そのような思いを抱くことができたのは、児童に技能がしっかりと身につけていたからこそだと思います。そこで何をモチーフにしたのかと言えば、弘前城でした。ちょうどその頃に、築城400年祭で城の移築が話題になっていたのです。東西南北の方向からそれぞれ見ると、一見同じように見える弘前城も、造りが違うと言います。その異なる四面の弘前城をグループごとに製作しました。そして裏面の見送り絵には「四神獣」を描くことにしました。つくり方や絵のデザインは、全て児童が話し合い、自主的に考えを出しました。複雑な城の形状も、4年次に灯笼をつくった時の経験を応用しながら自分たちで組み立てていきました。

また見送り絵の図案も児童の発想によるもので、それを大胆な構図で描き上げました。教師も児童の熱意に応えて、題材名を「アート集団6年2組がやってきた」と名づけていました。製作には困難を要すると思いましたが、彼らの強い思いから全て既習内容を応用してやり遂げました。材料や用具の使い方が身につくには時間がかかりますが、改めてしっかりと指導することの大切さを思い知らされたのです。



4

祭りに参加した子どもたちは、プロがつくったねぶたの中にあっても、一からつくり上げた自分たちのねぶたを誇らしげに担いでいました。その姿は堂々としていて、とても頼もしく感じました。こうした大人に混じって多くの人に見られるという祭りの場の設定が、想像以上に子どもたちの力を引き出したと思います。一つの造形活動が継続されて、絵や立体、工作と領域が統合されて大きく展開し、さらに地域のねぶた祭りという舞台への参加につながっていきました。



6



5

- 4 四神獣のデザインを考えている様子。
- 5 6 グループで試行錯誤しながら、城の骨組みをつくっていきます。
- 7 弘前城ねぶた出陣！



7



6



8 「灯籠で描く私たちの弘前」展(2015年8月4日~7日)

## 展覧会へ

教師の転勤が決まった際に、それらの作品を処分することになりました。もともとねぶたというものは祭りが終わると解体され、毎年新たにつくり直されます。私も一緒に子どもたちのねぶたを解体するため手伝いに行きました。いよいよ作品を壊す段になった時です。そいつ「弘前城」の端の紙を少し剥がしてみると、中には立派な骨組みが見えました。全て子どもたちの手づくりです。思わずまたそっと紙を戻し、指導教員と顔を見合わせて、「壊すことはできないね」と言い合ったのを思い出します。

そこで、最後に今までつくった灯籠を全部使って、展覧会を開催することを思いつきました。また、ちょうど祭りの期間中だけ地域の展示館が空いていたのも幸運で好都合でした。子どもたちの灯籠を作品として、地域の方々に改めて見ていただく。そう思って「灯籠で描く私たちの弘前」展を企画しました。弘前は、お城を中心に町ができています。実際の町と同様に中心に弘前城を据え、四方にこれまで描いた灯籠絵の建物をその方向に配置することで、弘前の町並みを表現します。夜には、子どもたちが電気の配線を考えて取りつけた灯籠の電気を灯しました。まさに図工だ

けではなく、理科や社会などの教科の学習内容が結集されています。

会場では入学前の幼児が保護者と一緒に灯籠を担ぐ姿もありました。教室で始まった一題材が、祭りに参加してさらに大型化した。最後は展覧会を催すまでに展開しました。そしていよいよ最後の撤収の際に、思いがけないことが起こりました。それらの作品を譲り受けたいという方が現れたのです。経営している介護施設等で飾っておきたいということで。外に出てねぶたを見ることのできない、ご年配の方々に是非味わわせてあげたいと。

地元では、ねぶた祭りを子どもから大人まで通過儀礼のように体験します。伝統文化と言え祭りに参加し、さらに展覧会で多くの地域の方々に見て頂くことで、子どもたちのつくった作品は大切に引き継がれていくことになったのです。

## 地域に根づいた 学校教育がもたらす力

一連のねぶた製作は、学校内の造形活動が地域社会や祭り結びついて、子どもたちの潜在能力を大きく引き出したと思います。そして学校の教室から飛び出して子どもたちの造形が広く地域社会に溶け込んでいきました。そ

の結果、最後の局面で彼らのつくった灯籠が作品として生かされることになりました。子どもたちがしっかりと材料や用具の使い方を習得して、一生懸命つくったものには、作品としての命が宿りました。

地域社会の文化が子どもたちを大きく成長させ、彼らの作品がまた地域社会に還元されていったのです。地域と連携することで子どもたちも潜在能力を最大限に発揮し、そこに生まれる、造形教育がもたらすダイナミズムを実感することができました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの取り巻く環境が大きく変化し、人と人との触れ合いが困難な状況を経験しています。コロナ禍で2年間、弘前もねぶた祭りが中止になりました。そうした中、改めて学校教育が子どもたちにもたらす力と、地域に根づいた伝統文化や、自分が属するコミュニティとのつながりの尊さを思い知るのです。

えびな あつこ  
蝦名敦子

柴田学園大学短期大学部  
保育科 特任教授  
(弘前大学 教育学部 名誉教授)





試作品をつくる和菓子職人さんの様子を見学。



右：生徒作品「春の朝露」  
左：生徒作品をもとにした生菓子

地域と  
連携した  
造形教育

# 地域とともに 美術教育

## 地域とともに

学習指導要領には「学校や地域の実態に応じて、校外においても生徒作品などの展示の機会を設ける」とあり、地域での展示活動について、新たに盛り込まれました。学校での学びを、学校の中だけで閉じてしまわず、身のまわりや身近な地域など、生活や社会の中に生かしたり役立てたりすることは、子どもたちに学ぶ意義を実感させるという点で、とても大切なことだと考えています。今回は、二つの実践を紹介し、地域とともにつくる美術教育について考えてみたいと思います。

## 地域をテーマとした 四季を感じる 和菓子をつくらう

和菓子の世界は奥深く、日本の伝統的な文化の一つです。それを美術の授業に取り入れる実践は、教師にも人気の題材で、今では全国的に広がり、さまざまな取り組み事例が見られます。しかし、ここで

は単に美しい和菓子をつくるということではなく、造形的な見方・考え方を働かせるとともに、自分たちの住む地域に目を向けさせることや、日本の伝統文化や日本人の粋な遊び心などを学ばせるきっかけにしたいと考えています。

導入段階では、地域の菓子店の職人さんがつくった和菓子を実際に鑑賞し、表現されているモチーフや季節を推測します。そして、主題を生み出す段階では、部活動が終わった帰り道に見る向日葵から発想したり、小さい頃から親しんでいた近所の神社の敷地に広がる紅葉から発想したりするなど、自分たちの大切にしたい地域とその情景から発想することができました。

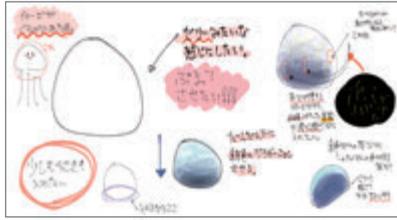
生徒の作品は、実際のお店のショーケースに展示させていただき、多くの来店客からも大変好評でした。また、

- 1 生徒作品「帰り道の向日葵」夕方、部活の帰り道に咲いている向日葵から発想した。
- 2 生徒作品「踊る桜の木」自分の出身小学校に咲く桜の木と、自身の成長した姿をイメージした。



3 生徒作品をもとに、商品化された和菓子。

4 5 一人一台の端末を活用して、アイデアスケッチや作品紹介のポスターを制作。



和菓子店のショーケースに展示された際の様子。



売までされることで、生徒にも感想の声を寄せられました。こうした一連の流れは、授業のねらいを共有するなど、お店の方と何度もやり取りをすることで生まれました。

期間限定で生徒の作品をもとにした和菓子も製造・販売され、テレビや新聞にも大きく取り上げられたのです。地域をテーマとした作品が地域に展示され、さらには販

### 流木とねぶた紙で つくるオブジェ

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、青森市では2年連続ねぶた祭が中止となりました。昨年8月に、代替イベント「心に灯せ ねぶた魂」が一夜限りの無観客で開催されましたが、その中で約6分間お披露目されたねぶた「市川團十郎白猿 不動の睨み」は、翌日解体されてしまいました。

本校では、このねぶたに使われた和紙片を貰い受けて再利用し、創立50周年記念式典を彩るオーナメントやランプシェードなどのオブジェを制作することにしました。木の枠組みは、学区である浅虫海岸に漂着した流木を拾い集めたものを使用しています。持続可能な社会の実現をめざし、地域の伝統文化を受け継いで守り続ける態度や、ふるさとを大切にすることを育てたいというねらいのもと、美術の授業で制作しました。1年生は壁掛け(吊り下げ)タイプ、2年生は半立体のオブジェ、3年生は灯籠型のランプシェードを選択し、まさに世界に二つとない作品たちは、50周年記念式典を盛り上げました。



- 6 「市川團十郎白猿 不動の睨み」公益社団法人青森青年会議所／制作:立田龍宝
- 7 ねぶたの和紙を選んでいる生徒たち。
- 8 学区の浅虫海岸で流木を拾い集めた。
- 9 ねぶたの和紙と流木を組み合わせ、オーナメントを制作している様子。
- 10 渡り廊下に展示したオーナメント



そして式典の後、このオブジェは、地域の施設や商店、温泉旅館などに飾られることになったのです。

### 地域社会とつくる学び

地域の商店街で使用する包装紙を中学生がデザインするなど、これまでも地域と連携した取り組みを行ってきました。大切なことは、子どもたちの学びを自分たちの身のまわりにあるものや地域と関連させたり、他教科との連携をしたりし

て、生徒が学習に対して必然性や親近感をもつようにすること、学校から地域への一方通行で終わらせるのではなく、目的を共有し、往還的な交流をしていくことではないでしょうか。今後も「地域とともにつくる美術教育」をめざしていきたいと考えています。

青森県  
青森市立東中学校  
教諭  
高安 弘大  
たかやす ひろとも





2



3



1



4



5



地域と  
連携した  
造形教育

# 人と人が つながっていく 造形のカ

動物たちが  
街へとびだした！

昨年2月、弘前れんが倉庫美術館がス  
クールプログラムとして「ひろぶ動物園が  
弘前れんが倉庫美術館にやってきた！」  
の展示会を企画してくださった。美術館  
の階段の上からこちらを見ているホワイ  
トタイガーに「こわ〜い」と足が止ま  
る子どもや「あつ、虎だ〜」と目散に駆  
け上がる子ども。特に親子連れの方々が  
多く訪れ、動物と同じポーズで写真撮影  
を行うなどして大人から子どもまでたの  
しく生徒作品を鑑賞していただける展覧

会となった。「威嚇するレッサーパンダ」  
の作品は、展示会後に弘前れんが倉庫美  
術館に付帯するカフェ&レストラン  
BRICKへ譲渡され、今も訪れる人の  
目をたのしませている。  
そして9月、そろそろ動物たちを解体  
しなければと思っていた矢先に、毎年11月  
に開催される「弘前城菊と紅葉まつり」へ  
の参加のお話をいただいた。リースのつく  
り方や花の色の選び方などを地元の生花  
店の方にレクチャーしていただき、造花で  
装飾をした動物たちが弘前城の追手門前  
と東門前に展示された。動物を制作した  
生徒は卒業してしまったので、公園での菊

- 1 組ねぶたのつくり方で制作した動物を展示するため、弘前城の東門へ運んでいる。
- 2 階段をあがった先に展示している生徒作品「ホワイトタイガー」
- 3 弘前れんが倉庫美術館に付帯するカフェに現在も展示されている生徒作品「威嚇するレッサーパンダ」
- 4 地元の生花店の方からレクチャーを受けている様子。
- 5 作品に造花を用いて装飾を施す。

遠足中の園児たちが訪れたり、テレビで展示の様子が放送されたりした。



花景家の阿部喜恵氏から演出の指導を受けている美術部員たち。



花による演出作業は花景家の阿部喜恵氏から指導を受け、美術部員で行った。展示作業時、遠足中の保育園の子どもたちが歓声を上げて歩いてきた。どの動物が好きか聞くと「パンダ〜！かわいいから。」と答えてくれ、美術部員もほっこりしていた。祭り期間中も大勢の観光客で賑わい、地域のお祭りを盛り上げた。

## 旧時計店でゆる〜い美術部展

美術部員の作品を発表できる場として、土手町商店街で現在空き店舗の旧時計店を、市の都市開発課が7月に紹介してくださった。作品の大きさの制限なし、キャプションも各校で自由、参加した8校の打ち合わせは全てメールで行われた。11月の搬入当日、それぞれが持参した作品を旧時計店の店舗空間に合わせながら約60点の作品が展示された。元々店舗に置いてあった古い時計や写真はそのままにして、生徒たちの自由な作品と一緒に飾った。旧時計店の中を見てみたいという地元の方、「弘前城菊と紅葉まつり」に行く途中に立ち寄る方、見に来たついでに隣の市場で買い物をする方など、訪れる人々はさまざまであった。二日間の展示で一日5時間という短い展示期間だったにもかかわらず、来場者数は約120名にもなった。二日目には弘前市長が突然訪れた。もつと驚いたのは、本校美術部長のKさんが「弘前の街を、アートのでもって活性化させてほしいです！」と市長に



言ったことだった。しかしそう気軽に、今回のように空き店舗を利用できるものではない。空き店舗にはまず、電気が通っていない。管理されている方々との交渉や借用料、鍵の管理も必要になる。今回の展示はタイミングと条件がうまく重なったことで、肩の力を抜いて、ゆるい気分で実現できた。

## 地域と連携した造形教育の価値とは

これらの取り組みがこれほどまでに地域へ広がるとは、自分でも思いがけない出



来事だった。作品を貸してほしいという方が次々と現れ、その方たちとの交流が、新たなつながりを生み出してきた。地域に展示されれば生徒と保護者が喜び、後輩たちも「つくりたい」という意欲が湧く。これはやはり美術という教科の特性の二つで、非認知能力を育てるという意味においても造形教育は必要であると確信している。「次は自分たちで全部やりたい。」とつぶやいたKさんの言葉通り、今後は生徒自身が考え、生徒の手による展覧会が動き出す、弘前の未来に期待したい。

6 新聞記者のインタビューに少々緊張しながら答えている生徒。彼は将来ねぶた絵師になることを目指している。

7 卒業生と、自身の作品の前でバナナを頬張っている美術部部長のKさん。

弘前大学  
教育学部附属中学校  
教諭  
まかなえ やすこ  
蒔苗 靖子





地域と  
連携した  
造形教育

まわりに  
たくさんある赤い糸。  
どんな意味が  
あるんだろう…?



# つながりの先にあるもの —連携によるシナジー効果—

## 面白さを 体験してほしい

いわき市立美術館から「次年度、『Next World—夢みるチカラ』タグチ・アートコレクション×いわき市立美術館」という企画を開催するので、それに向けて子どもたちが芸術作品に親しめる『子ども鑑賞ガイド』をつくりたい。協力をしてもらえないか。」とお誘いの連絡があった。「コロナ禍の中、学校の教育活動もままならない状態で、そもそも開催できるかどうかの不安もある。しかし、「子どもたちが現代美術を面白く思うようなガイドをつくりたい。」という思いが自分の中で勝った。同じ思いを抱いている図画工作科部会の教員にも声をかけ、美術館と小学校教員による連携が始まったのである。

その制作会議が面白かった。造形教育に熱く取り組む教員、現代美術の面白さ

を伝えたい学芸員、タグチ・アートコレクションの関係者たちが、目をキラキラさせて鑑賞している子どもたちの姿を思い浮かべながら、それぞれのアイデアを次々に語り合っていく。それは、そこにいる皆が「作品をじっくり見て何かに気づくという体験をしてほしい。」「自分の見方や感じ方を大切にして、作品のよさや美しさ、面白さなどを感じ取ってほしい。」と思っていたからだ。そして、その中で「美術館に行ったことがない児童が多くいる」と話が話題に挙がった。



「Next World—夢みるチカラ」 子ども鑑賞ガイド

## アート作品が学校に

「それなら、美術館が学校に行けばいい。」というタグチ・アートコレクション共同代表の田口美和氏の言で、市内の学校を会場にコレクションの作品を展示・鑑賞する「Next World 夢みるチカラ デリバリー展」開催が決定した。学校と美術館との連携事業として、子どもたちが「流の現代アートを校舎の中で直に体感できる取り組みが実施されることとなったのである。

本校も手を挙げ、小名浜西小学校体育

赤く見えているのは特殊なフィルムのカメラで撮影しているからです。

どうして、そんなカメラで写真を撮ったんだろう...?



館に、10点の現代アート作品が展示された。そして、このデリバリー展には、児童が能動的に鑑賞できる三つの仕掛けがあった。一つ目は、「鑑賞前、『自分のお気に入りを見つけよう』という投げかけ」二つ目は、「鑑賞中、作品ごとに掲示されている問いかけや美術館学芸員やタグチ・アートコレクション関係者らブース担当からの言葉かけ」三つ目は、「鑑賞後の『お気に入りとその理由を教えてください』という振り返り」である。

特に、鑑賞中の問いかけは、さまざまな感覚を働かせて鑑賞するのにも効果的であった。「どうして○○だとと思う?」「この中に何かいる?」「この二人は何をしているの?」などのそれぞれの問いかけによつて、児童は食い入るように作品を見つめ、自分でその答えを探し出すようになった。また、その作品の大きさ、奥行き、材質感、絵の具の厚さなども感じながら、作品を近くで見たり、離れて見たりしながら、二つの作品を見て考え、感じ、自分の考えを話

すという活動をくり返していた。ブースの担当者が子どもの考えを引き出し、それを聞いて自分の考えとの違いからまた考える子。ブースにいる専門家の解説を聞いて作者のエピソードや思いを知り、驚く子。どれが一番心に残ったか「お気に入り」を探す活動に真剣な子。子どもたちは、能動的にたのしく鑑賞をしていた。

## 思いの連携



今回の鑑賞学習が、子どもたちにとってこれほど有効なものとなったのは、なぜか。それは、美術（アート）の力を信じ、子どもたちの力を高めたいという熱い思いをもった者どうしの能動的な連携が、子どもたちの能動的な鑑賞を生み出したからであろう。私は校長として、これからも子どもたちのさまざまな能力を高めるために、同じ思いをもった方々との連携を進めていきたい。

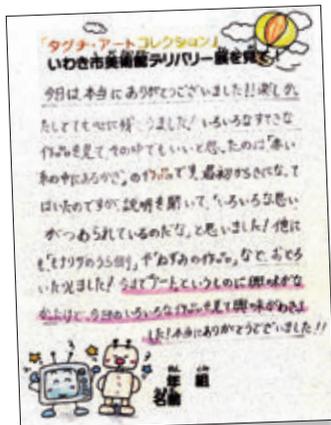
## 児童の感想から

私だけの作品の見方と、他の人の見方の違いが面白かった。つくった人の思いや考えが作品に詰まっていることを知って、すごいなと思いました。

私のお気に入りの作品は、○○です。絵がじょうずじゃなくてもいいよ不安だったから、○○の絵の解説の「思うままに自信をもって絵を描いていいんだよ。」というお話がうれしかった。

いろいろな作品から何かを感じてみるということが、たのしかったです。あの作品を見て、いろいろな人のつながりを大切にしたいと思いました。

作品を見るのが好きになりました。



福島県いわき市立小名浜西小学校  
校長 窪木 富士美



## 「墨壺」



墨壺は、糸に墨汁を浸みこませ、それを張り、パチンとはじいて、墨の線を転写する単純な道具です。昔から世界中の木材や石材加工の場で使われてきました。

資材に墨を入れるという行為はすべての作業の出発点であり、工事全体の成否に関わることを意味しています。墨壺は最も大切な道具です。ここに、この道具が道具を超えた存在になっていく余地が生まれます。

名刹めいさつの修復時に、隠れた場所で墨壺が発見されることがよくあり、「大工さんの忘れもの？」といわれてきました。これはのどかな解釈ですが、どうでしょうか。本当は故意に置いてきたのだとしたら。建物の安寧を願って、棟梁とうりやうの責任と自負心と覚悟を示すシンボルとして残していったものだったのではと考えたら。

魔よけの願いと祈りが込められた、風水の四神獣の形を模している墨壺を見たことがあります。家の天井裏の四方にそれぞれの神獣を彫り込んだ墨壺を置いておくというのです。

さて、今回紹介している墨壺はもつと厄介です。大工さんは、玄関先の樗あしちの上がりあまちの余った材を使って、このような豪華な墨壺をつくったようです。自らの技量を誇るために時間を見つけてせつせと。モチーフとしては鶴や亀、巨大な力を予感させる龍などです。墨壺としては使いにくい気がしますが、普請の契約相手や部下の職人たちに力を示したのでしょうか。墨壺から当時のいろいろな顔が見えてきます。

真剣勝負の道具に見られる遊びも素敵です。

藤澤英昭ふじさわ ひであき

千葉大学 名誉教授

長年にわたり文部科学省の学習指導要領の作成に携わり、平成元年以降の教育の方向性を示す。

# ちかごろ 気 になる...

## 言葉にできない「好き」を

静岡県静岡市立大川小中学校  
石垣 拓磨



気持ちや言葉など、形のないものを絵や立体で表現する創造活動では、「何をしたらいいかわからない」と固まってしまう子がいる。言葉にできない思いを形にできるのが図工・美術の魅力であると同時に、大きな課題の一つでもある。

私の所属する静岡市立大川小中学校は、静岡市の北部に位置する小中一貫型の小規模校であり、私も中学部の部活動の副顧問(音楽部)を務めている。今年度は、音楽祭に向けて子どもたちと一緒にギター演奏に挑戦した。音楽の心得がない私は、コードを追いかけるのだけでも精一杯だったが、練習を重ねていくうちに、どんどん音楽の魅力に引き込まれている。

昨年度、地域の方々を招いた校内コン

サートで、音楽科の先生とコラボしてミュージカルを企画した。舞台装置、大道具、衣装、映像など、視覚的効果を加えた音楽劇は、総合芸術であると感じた。音楽に演出を加えることはとてもやりがいがあり、初めての経験に私自身も涙が出るくらい感動した。音楽は主に聴覚、美術は主に視覚に訴える芸術だが、鑑賞者の心を動かす力を持っているという点では、どちらも等しく、表現者にも鑑賞者にも、共感する力が欠かせない。

感受性は日々の生活の中で培われていく。子どもたちと絵を描いていると、筆洗の中に偶然できた色水を見て、「先生! この色きれい!」と、パレットの中でつくった色以上に興味を示す子どももいる。「絵を描く」「工作をする」だけが図工・美

術ではなく、五感をフルに使って、感性を磨くことは表現活動にきっと生きていく。

川のせせらぎ、シカの鳴き声、満天の星空、蕎麦のにおい、ヒツジの柔らかさ、芝の上の日なたぼっこの気持ちよさ…。自然に囲まれたこの学校では、子どもたちがのびのびと感受性を養っている。子どもたちには、これからたくさんの「好き」を見つけてほしい。



## タブレット端末で制作を繰り返る

東京都国分寺市立第五中学校  
竹中 直



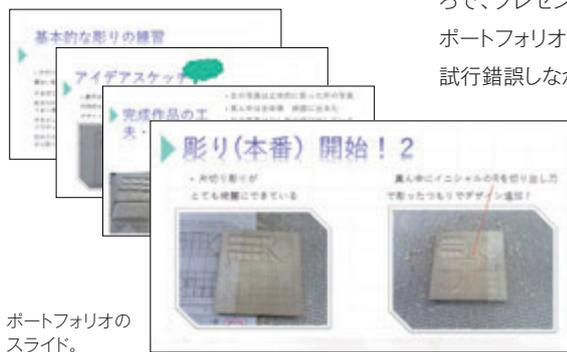
GIGAスクール構想による一人1台のタブレット端末貸与が始まった当初、早速取り入れている教科を横目に、美術ではどのように活用していくか、考えあぐねていた。2学期に入り、動画で説明することの多い題材が始まるのを機に、必要に駆られて全学年でタブレット端末を活用し始めた。解説用の動画を生徒の端末に配布して、

それぞれが必要な時に再生して確認できるようにした。生徒は、動画をよく見て手順や技法を確認しながら作業しているが、徐々に端末を見ずに制作することができるようになる。それでも困っているような生徒には声を掛けてアドバイスした。同時に、カメラ機能で生徒が自分の作品を毎時間撮影することにした。さて、作品が完成したところで、プレゼンテーションソフトを活用したポートフォリオの作成に取り組んだ。生徒は試行錯誤しながらも、たのしんでつくっているが、写真に対するコメントを書き加えることが

進まないこともある。そんな時は授業の終わりに毎回提出させていたふり返りのワークシートが役に立った。数行書かせて

いた授業の感想をスライドに入力していけば、作者の思いも伝わる制作日誌ができる。自分で撮影した画像に、文章やレイアウトの工夫も相まって、見ごたえのあるスライドが次々とでき上がる。制作過程をじっくりふり返りながら二次的な制作をすることで、自分がつくったものに愛着をもてるようになって感じた。

私にとっても得たことが多い。以前から生徒の制作過程は多く撮影してきたが、参考作品として映写する程度で生徒に十分還元できていなかった。ふり返りのワークシートもチェックして返却する程度だった。結果として、このような「なんとかしたい」と思っていた授業の未熟な部分を補う取り組みができた。生徒にとって、よい学びになる点に着目し、今後も、まずはやってみることから始めていきたい。



ポートフォリオのスライド。

# 子ども と 美術館



## 福岡市美術館

福岡市美術館  
主任学芸主事

鬼本 佳代子  
おにもと かよこ



©Yinka Shonibare CBE, 2021. Courtesy of James Cohan Gallery, New York 撮影:山中慎太郎 (Qsyumi)

### 福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

TEL:092-714-6051

開館時間:9:30~17:30

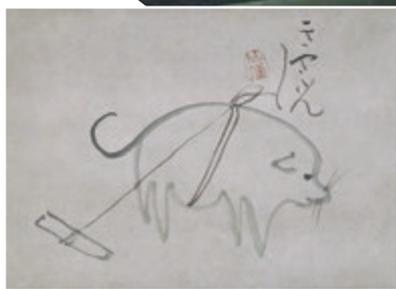
(7月~10月の金・土は20:00まで)

※入館は閉館の30分前まで

休館日:月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日)、年末年始

作品:インカ・ショニバレCBE「ウィンド・スカルプチャー(SG)II」  
2021年

福岡市美術館は、1979年、福岡市の中心部に位置する大濠公園<sup>おほり</sup>に開館しました。公園のほとんどを占める楕円形の池は、元々は福岡城の外濠だったそうですが、現在は福岡城址を擁する舞鶴公園とあわせて、豊かな緑をたずさえた市民の憩いの場となっています。その緑に調和するように、福岡市美術館の茶褐色の建物は佇んでいます。建築設計をおこなったのは、日本の公共建築を数多く手がけた前川國男<sup>まへかわくに お</sup>です。福岡市美術館は、2016年9月から2019年3月までリニューアルのために休館していました。その際、時代に即してユニバーサル化を目指すしつつも、同時に前川氏の意匠は必ず残すということを決めてリニューアルに臨みました。現在も前川建築の特徴と言われる外壁のタイルはもちろん、アーチ型の天井や照明、コンクリートを削った壁などが、開館当初と変わらず、ゆったり



せんがい ざいじん  
仙屋義梵「犬図」19世紀(江戸時代)



インカ・ショニバレCBE「桜を放つ女性」2019年  
©Yinka Shonibare CBE, 2019. Courtesy of James Cohan Gallery, New York.  
撮影: Stephen White

と落ち着きのある空間をつくり出しています。一方、小さい子どもにも美術をたのしんでもらおうと、地元アーティストが手がけたキッズスペースや授乳室などが新設されました。

コレクション展示室は1階と2階に分かれており、1階には茶道具や仏像などのほか、いわゆる日本・東洋の古美術と言われる作品が展示され、2階にはダリ、ミロ、シャガールといった美術史を彩る作家作品のほか、地元福岡・九州にゆかりの作家作品や現代美術作品などが、テーマを設けて展示されています。当館のコレクションは、16,000点を超え、紀元前のものから現代のものまで、そして日本はもちろん、そのほかのアジアの国々、欧米、アフリカまで時間的にも空間的にも幅広い作品で構成されているのが特徴です。



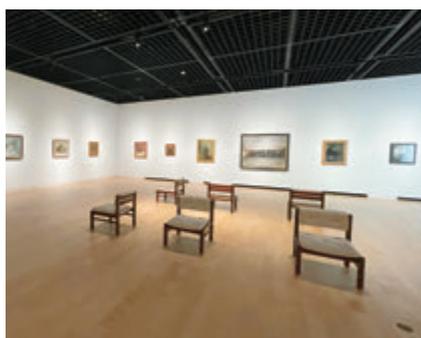
夏休み子ども美術館2020 子どもワークショップ「きってのはってこわい絵をつくろう！」

当館には美術館の使命を宣言した「ミッシェン・ステートメント」だけでなく、教育活動の方針を書いた「教育普及活動方針」というものがあります。この方針に沿って、多様な人々が美術に触れることができるよう、さまざまなプログラムを実施・展開しています。それは、来館できる人だけではなく、美術に触れたいけれど来館が難しい人たちをも対象としています。リニューアル後に始めたプログラム「どこでも美術館ティーチャーズプラス」などはその一例といえるでしょう。このプログラムは当館の所蔵作品の複製、所蔵作品に関連する実物作品、資料や描画材料などの教材を、学校に貸し出すというものです。まだ始まったばかりですが、授業で使用された先生たちからは大きな反響があり、少しずつ広がりを見せています。また、同じ教材を使用して、特別支援学校や院内学級、島嶼部の学校などに、エデュケーターが outgoing、授業を行うアウトリーチプログラムも実施しています。

もちろん、来館してきた学校団体にも「スクールツアー」という、ボランティアによる対話型鑑賞ツアーも実施していま



どこでも美術館教材 染め・織りものボックス



コレクション展示室 近現代美術室B



ファミリーDAY2021 アーティストと一緒に風の彫刻をつくろう！



ファミリーDAY2019 初めてのベビーカーツアー



撮影株式会社エスエス上田新一郎

キッズスペース 森のたね

す。コロナ禍の現在、状況を見ながら少しずつ再開しています。

さらに、子どものための企画として二つご紹介したいのは、夏季期間に開催している「夏休み子ども美術館」と、11月3日の開館記念日を含む土日の3日間に開催している「ファミリーDAY」です。

前者は、子どもたちに美術へのさまざまな入り口を示すことを目的に、テーマを設けて所蔵作品を展示し、その鑑賞をサポートするワークシートの配布、関連ワークショップ、ギャラリートーク、図書紹介を行うという企画です。後者は、ベビーカーツアーや謎解きワークシート、アーティストによるワークショップなど多様なプログラムを館内のあちこちで実施、一部を除き予約がなくても子どもとその家族が複数のプログラムに参加できるというものです。実は、この「コロナ禍の中でもこれらのプログラムへの参加者や応募がいつも以上に多かつたことに、我々も非常に驚きました。そして、夢中になって制作したり作品鑑賞をしたりする子どもたちを見て、どんな状況でも、子どもたちにとってはこの体験の一瞬一瞬が大切なだと痛感しました。

本稿執筆現在、またこの状況がどうなるかわかりませんが、安全を確保しつつ、しかし、子どもたちの体験の灯火は消さないようにしたいと思っています。



よしだりし  
吉田博「溪流」1910年



ののむらにんせい  
野々村仁清「色絵吉野山図茶壺」17世紀(江戸時代)



ファミリーDAY2019 ミニミニワークショップ

# 入り口の向こうには…

千葉県浦安市立高洲小学校 いのまた りか 猪又 梨花



② 広く深い海



① 明るい平和な世界

## 主な材料・用具

不織布  
ビニルテープ  
アルミホイル  
体育用具…跳び箱・マット・  
走り高跳びスタンドなど  
ポリエチレン製防水ラミネートシート  
タブレット端末

## 題材のねらい

さまざまな材料、色、場所や空間などの特徴から、自分のイメージを広げ、他者とイメージを共有しながら、どのようにするかを考えていく思考力・判断力・表現力を培う。

## アレンジする題材

開隆堂出版  
「図画工作5・6下」  
16・17ページ  
入り口の向こうには…

学年  
第6学年

時間数  
5時間

## 学習の流れと 子どもの活動

1

一人1台のタブレット端末を持ち、  
校内をまわって、  
入り口をつくりたい場所を探す。

2

グループで話し合い、  
つくりたい入り口の  
イメージを統一し、材料を考える。

3

材料と場所の特徴を生かし、  
想像を広げながら、入り口をつくる。

4

他のグループの友だちから  
アドバイスをもらい、  
そのアドバイスを参考に再構築する。

5

他のグループの作品を  
鑑賞しながらよさを味わう。



端末で教師の指示を  
確認する様子。



体育館の肋木を使って  
ダイナミックに。

本題材は、学校の日常の景色の中に、入り口が現れたことで違った空間になることや、その入り口はどこにつながるのかわかるのかを考えるとをたのしむ活動である。

まず、どこにどんな入り口があったらよいかを自分で考え、つくりたい場所や発想が似ている友だちと4〜5人でグループを組む。イメージを共有して、材料や場所の特徴を生かした空間になるように話し合いながら、試行錯誤して入り口やそのまわりの空間をつくる。

そして、他のグループのでき上りを鑑賞し、よさをたのしむ。造形遊びを通して、他者とイメージを共有し、材料の形、色、場所との組み合わせなどから発想を広げ、次々に試したり再構築したりする姿を目指していく。

指導のポイントには、児童の思考・活動の手を止めないことである。そのため、今回は「Meta Moji Classroom」(以下、「Meta Moji」と「Microsoft Teams」(以下、「Teams」という二つのアプリをタブレット端末で使用した。「Meta Moji」はリフレクシオンタイムに使用し、写真を保存したり、工夫したことや次時のめあてを記入したりすることで、毎時間の思考をポートフォリオに残せる。児童一人一人の活動内容や思考過程の軌跡が残り、評価にも活用することができた。「Teams」では、チャット機能を使用した。各グループの活動場所が広範囲にわたっていたが、教師は端末上で指示を出すことができるので、児童を集合させずに指示を出したり、離れた場所でもアドバイスができた。りするので、活動時間を有効に使うことができた。

活動の後半には、グループどうして作品を見せ合う「アドバイスタイム」を設定した。5分のできるアドバイス、をキーワードに、簡単な手直しを加えることで最後までよりよい作品づくりをしようという意欲を、児童にもたせることができた。

### 題材の観点別 評価規準

#### 知識・技能

自分の感覚や行為を通して、材料の形や色などの造形的特徴を理解し、活動に応じて材料や用具を工夫している。

#### 思考・判断・表現

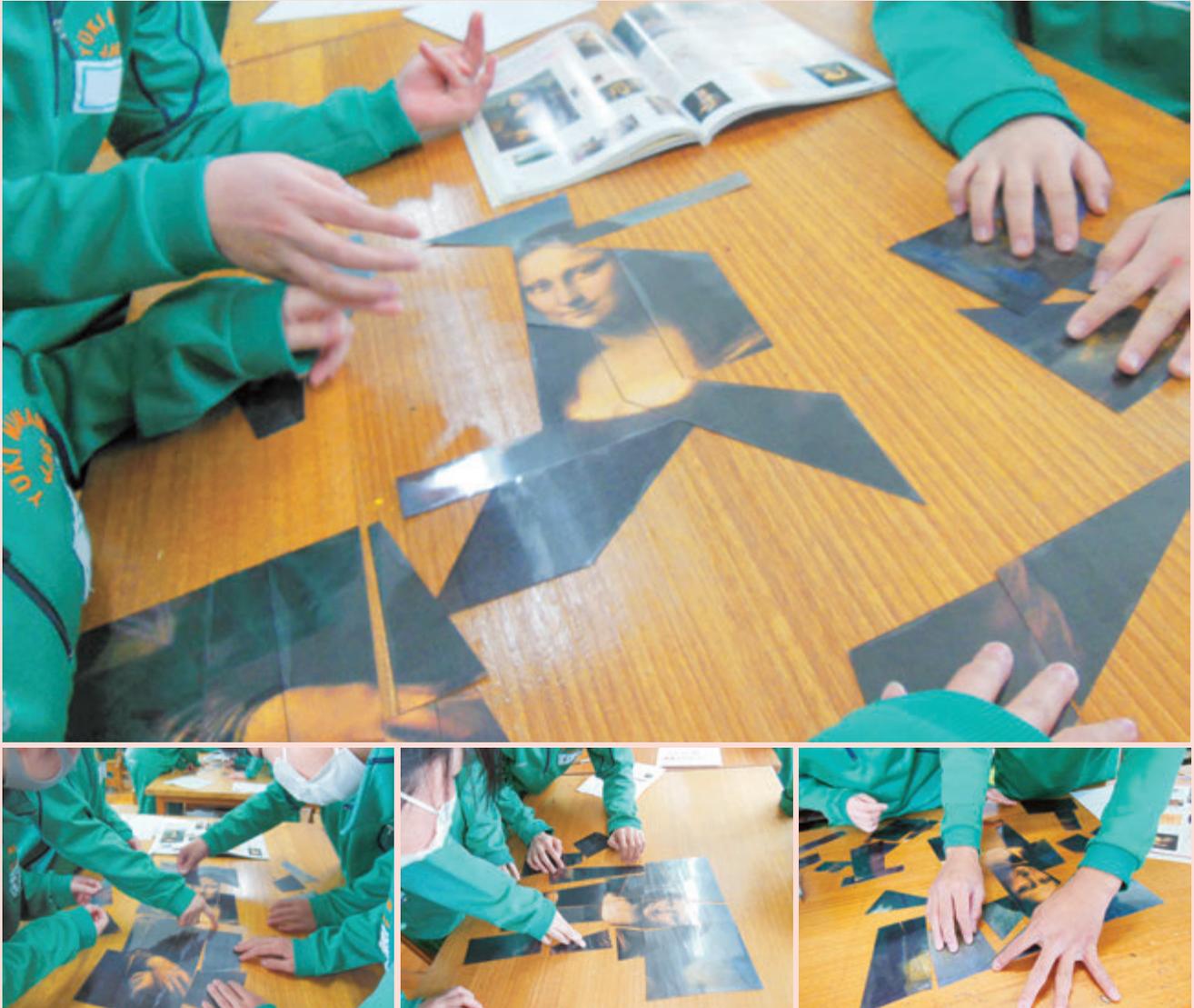
材料や場所の特徴を生かした組み合わせから発想し、活動によって変化した造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている。

#### 主体的に学習に 取り組む態度

つくりだす喜びを味わうとともに、場所や環境を生かした造形遊びをしたり鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとしている。

# ズームイン 「ダ・ヴィンチ」

茨城県結城市立結城南中学校 塚越 美奈子



## 主な材料・用具

モニター  
パズル「モナ・リザ」  
資料集  
ワークシート

## 題材のねらい

レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯や作品について考えたり、「モナ・リザ」のパズルに取り組んだりすることで、造形的な見方や考え方を深める。

## アレンジする題材

開隆堂出版  
「美術2・3」  
56・57ページ  
ルネサンス、人間の発見

学年  
第3学年

時間数  
2時間



本題材は、レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯や作品について考えた話し合ったりすることで、造形的な見方や考え方を深める鑑賞の題材である。

絵画にとどまらず、建築学や天文学、解剖学などの幅広い分野に関心を持ち、ヘリコプターの考案など、時代を先取りした発明家でもあったダ・ヴィンチの生涯や表現活動について学ぶことは、美術を通して国際理解や美術文化の継承につながる考えた。

一時間目の導入では「最後の晩餐」「モナ・リザ」と題材名「ズームイン「ダ・ヴィンチ」」をモニタ

## 学習の流れと子どもの活動

1

ダ・ヴィンチの表現活動について理解し、ワークシートにまとめる。

2

ワークシートにまとめたことをもとにグループで話し合う。

3

話し合ったことをもとにワークシートに書き足したり、感想を書いたりする。

4

グループ対抗で「モナ・リザ」のパズルに取り組む。

5

ワークシートにパズルに取り組んだ振り返りを書く。

に大きく映し出すことで生徒の興味・関心を喚起した。次に資料集とPowerPointによる画像を通してダ・ヴィンチの生涯とその作品や表現技法について学んだ。その際、「モナ・リザ」がダ・ヴィンチの自画像であるという説なども交えて解説することで、生徒の好奇心をかき立てる。絵をじっくりと見て、感じたことや考えたことをワークシートにまとめ、それをもとにグループ内で発表し、話し合いをした。グループ内で意見を交流することで、自分とは異なる意見に共感したり、新たな考え方をもちたりして作品への理解と造形的な見方や考え方を深めることができた。

二時間目には、グループごとに友だちと協力しながら表現技法や構図の特徴に注意して、ダ・ヴィンチの代表作である「モナ・リザ」のパズルに取り組んだ。グループ対抗のタイムレースにすることで、作品の概要や個別に使われている表現技法の全体像を素早くとらえ、たのしみながらパズルに取り組むことができた。

ズームイン「ダ・ヴィンチ」

年 組 番 名 姓

1 「モナ・リザ」のパズルは 9 冊中 4 冊で完了。  
完成タイムは 8 分 06 秒でした。

2 今日の活動を振り返りましょう。

(1) あなたががんばったことはどんなことですか。  
10分間のペースを覚えました。そのペースでパズルを完成させたことが良かったです。

(2) 今日の班の活動でよかったことはどんなことですか。  
みんなががんばって、早くパズルを完成させたことが良かったです。

(3) 今日の活動でもっとこうすればよかったと思うことはどんなことですか。  
もっと早くパズルを完成させたことが良かったです。みんなががんばって、早くパズルを完成させたことが良かったです。

3 本日の授業の感想を書きましょう。

スファート、空気遠近法、空気透視法などの表現技法や構図の美しさを感じることができました。また、パズルに取り組むことで、作品の全体像がわかりやすくなりました。また、みんなががんばって、早くパズルを完成させたことが良かったです。

パズル後のワークシート。

子の人物像をもとにして、こんな思いが作品にこめられているのではないかと考えることができた。「スファートの技法はやさしくやわらかい雰囲気になると思った。」などの記述があり、今後の鑑賞や表現につながる活動ができたと感じている。

子の人物像をもとにして、こんな思いが作品にこめられているのではないかと考えることができた。「スファートの技法はやさしくやわらかい雰囲気になると思った。」などの記述があり、今後の鑑賞や表現につながる活動ができたと感じている。

## 題材の観点別 評価規準

### 知識・技能【知識】

レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯やスファート、空気遠近法や一点透視図法などの表現技法を理解し、ダ・ヴィンチの作品の造形的な特徴を捉えている。

### 思考・判断・表現【鑑賞】

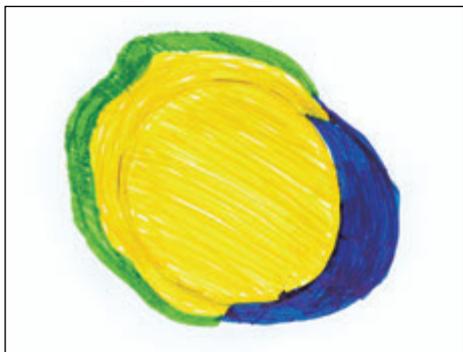
造形的なよさや美しさを感じ取ったり、表現の意図と創造的な工夫などについて考えたりして、見方や感じ方を深めている。

### 主体的に学習に 取り組む態度【鑑賞】

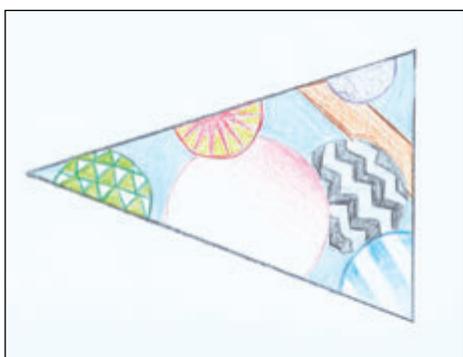
ダ・ヴィンチの表現活動について考えたり、パズルに取り組んだりするなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に主体的に取り組むとしている。

# 形と色彩で 自己紹介

<3年次の作品>  
丸の中にある形は、たのしかったときや悔しかったときの気持ち。  
丸の少し垂れている部分は怠けてしまうところを表し、上の殻のような部分は  
人見知りの性格を表現しました。



1年次の作品 [カラーペン/8×9cm]



2年次の作品 [色鉛筆/7×10cm]



3年次の作品  
形と色彩で自己紹介 [ポスターカラー/12×10cm]  
3年 齋藤 礼菜

## 先生のめ

新年度の初めにクラスメイトの前で自己紹介をしたり一年間の抱負を述べたりする感覚で美術表現をできればと思います、始めたのがこの題材です。形や色彩のイメージを自身の内面と関連づけて考え、それぞれが自分自身について表現しました。

齋藤さんは1年次に、自身の細かいことを気にしない性格を「ボワーンとした丸い形」で表現しました。2年次には、三角形を不等号に見立てて好きなことと苦手なことに向かう自分の姿勢を表現しました。3年次には、怠けてしまいやすい面や人見知りの性格を、垂れたような形や硬い殻のような形などでそれぞれ表現しました。三つの作品からは、学年を追うことに造形的な見方や考え方が深まり、明確なイメージをもって自己表現ができるようになってきた過程が見取れます。

齋藤さんの3年間の心の成長も感じることができた作品となりました。

(文)北海道札幌市立真駒内中学校 教諭 伊藤 彩乃



No.441 / 2022

2022年2月24日発行 [非売品]

発行所 開隆堂出版株式会社  
〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1  
電話:03-5684-6121(営業)  
03-5684-6118(販売)  
03-5684-6117(編集)  
編集兼発行人 岩塚太郎  
印刷所 株式会社大熊整美堂  
本文・表紙デザイン  
有限会社アーバングラフィックス



開隆堂出版株式会社

<http://www.kairiyudo.co.jp>

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1  
北海道支社 〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4番地2152 山京ビル7階  
東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階  
名古屋支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1丁目15番18号 オフィスサンナゴヤ9階  
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16  
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2丁目1番5号 FYCビル3階

☎03-5684-6111  
☎011-231-0403  
☎022-742-1213  
☎052-908-5190  
☎06-6531-5782  
☎092-733-0174